

(仮訳)

プレス・リリース

2025年5月21日

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、バーゼルⅢの実施を引き続き優先し、監督の実効性を強化するための作業を進め、サードパーティリスクに関する諸原則の最終化について議論

- バーゼル委は、バーゼルⅢの完全かつ統合的な形での実施を引き続き優先する。
- 2023年の銀行を巡る混乱から得られた教訓を踏まえて、監督の実効性を強化するための作業を進展させる。
- 2025年末までに、銀行セクターにおける健全なサードパーティリスク管理のための諸原則の最終化を目指す。

バーゼル委は、2025年5月20-21日にスウェーデン・ストックホルムで会合を開催し、様々な取組みについて議論した。

金融安定の見通し

バーゼル委メンバーは、最近の市場動向及びグローバルな銀行システムにおける金融安定の見通しについて意見交換を行った。

不確実性の高まりと市場のボラティリティの増大により、グローバルな銀行システムがその強靭性を維持し続けることを確保するためには、銀行及び監督当局による継続的な警戒が求められる。

2023年の銀行を巡る混乱

バーゼル委は、2023年の銀行を巡る混乱から得られた[教訓](#)を踏まえて、監督の実効性を強化する取組みの一環として、監督当局の日々の業務を支援するための一連の実務的なツールを策定する作業について検討した。初期の作業には、流動性リスクと銀行勘定の金利リスク（IRRBB）の監督、銀行のビジネスモデルの持続可能性の評価、及び実効性のある監督上の判断の重要性が含まれる。これらのツールは、既存の基準やガイドラインを変更したり置き換えたりするものではなく、世界中の監督上の実務と実効性を強化する目的で設計されている。バーゼル委は、本作業の結果に関するアップデートを本年末までに公表する。

今月上旬に開催された中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（GHOS）[会合](#)を受け、バーゼル委は、バーゼルⅢ枠組みを完全かつ統合的な形で、かつ可能な限り早期に実施することを引き続き優先する。バーゼル委はまた、流動性リスクや銀行勘定の金利リスク（IRRBB）など、バーゼル枠組みの特定の要素が2023年の銀行を巡る混乱の際に意図したとおりに機能したか否かを評価する分析作業について議論した。

金融のデジタル化

バーゼル委は、銀行セクターにおける健全なサードパーティリスク管理のための監督上の諸原則（以下、「諸原則」）に関する[市中協議](#)へのコメントをレビューした。また、銀行がサードパーティサービスプロバイダに依存することから生じるリスクと便益の分析についても議論した。

バーゼル委は、市中協議で受領したコメント及び独自の分析に基づき、本年末までに諸原則の最終版を公表する。

メンバーはまた、AI及びデジタル詐欺に関連する最近の動向について意見交換を行った。バーゼル委は、これらの分野の動向を引き続き注視する。

バーゼル委はまた、第3の柱の開示枠組みにおいて技術革新をどのように活用するのが最善かについて議論した。当該開示枠組みにより、市場参加者は、銀行のリスクプロファイルに関する重要な情報にアクセスすることが可能となる。これらのデータを機械可読性の高い形式で公開して、より簡単にアクセスできるようにすることは、重要な公益の提供となる。バーゼル委は、本年末までにそのような内容を提案する市中協議を行う。

極端な気象事象が及ぼす金融リスク

今月上旬のGHOS [会合](#)において、バーゼル委は、極端な気象事象が金融リスクに及ぼす影響の分析作業を優先するよう指示された。バーゼル委は、今後数か月にわたり、本作業の実施に向けた運用面の検討を継続する。

GHOS はまた、各法域が検討するための気候関連金融リスクに関する任意の開示枠組みの公表をバーゼル委に指示した。当該枠組みは6月に公表される予定である。